



令和8年3月最終号

学校だより



令和8年3月23日八王子市立高倉小学校

家庭数配布

令和7年度学校経営報告書

校長 佐藤 英樹

本校の教育目標「喜び合える子の育成」の実現に向け、「全ては子どもたちのために」を合言葉に教育活動を推進してまいりました。保護者・地域の皆様のご支援により、今年度の教育課程を概ね計画どおり実施できました。厚く御礼申し上げます。

後期学校評価アンケート等の結果を踏まえ、今年度への成果と次年度への課題を以下のとおり報告いたします。

		今年度の取り組み	自己評価
学校教育目標に関すること	本気で学ぶ	①基礎・基本の習得と学力の向上 ②学習習慣の定着と学習意欲の向上	<p>今年度は、授業の進め方や説明、ICT活用を工夫し、学習内容の理解を高めてまいりました。児童の「授業がわかる」は96.6%→98.9%(児童 Q9)、保護者の「授業がわかる」も90.5%→95.4%(保護者 Q17)と向上し、評価方法の分かりやすさも96.2%→98.0%(保護者 Q9)で高水準でした。一方、教員間のICT活用には差が見られ、自己評価は79.4%→80.0%(教職員 Q6等)と横ばいで、研修の充実が今後の課題です。</p> <p>学習意欲は学校内で高まっておりますが、家庭学習の定着には改善の余地がございます。保護者の「家庭で勉強している」は81.8%→74.5%(保護者 Q18)、児童の「家での勉強をしている」は65.6%→50.6%(児童 Q8)と低下し、読書習慣も54.6%→48.7%(児童 Q7)に低下しました。今後も、家庭と学校が協力し、毎日の学びを支える仕組みづくり(家庭学習の見える化や読書の機会づくり)を進めてまいります。</p>
	元気に遊ぶ	③基礎体力の向上 ④生活体力の向上	<p>体育の授業改善や外遊びの時間確保に取り組み、運動に親しむ児童の割合は69.7%→71.8%(保護者 Q20)と、わずかに向上しました。授業内の運動量の確保や体験的な活動の工夫により、意欲的に体を動かす姿が増えております。</p> <p>一方で、生活体力には課題がございます。児童自身の「家でも運動する」は68.7%→63.3%(児童 Q16)と低下し、地域行事への参加意欲も68.7%→54.8%(児童 Q18)と弱まりました。家庭の生活リズムづくりや地域とのつながりは、学校だけでは完結できません。</p> <p>今後は、家庭での運動や早寝・早起きに関する情報提供を行い(学校便り・HP)、放課後子ども教室とも連携し、学校と家庭・地域が一体となって子どもたちの体力づくりを後押ししてまいります。</p>
	正しく生きる	⑤自他共によさを認め、互いを尊重する態度の育成 ⑥自己有用感・自己肯定感の育成	<p>道徳の授業や学級活動を通して、友達によさを認め合い、互いを大切にすることを育てる取組を進めてまいりました。児童の「友だちとなかよくしている」は96.8%→88.6%(児童 Q11)と高い水準で推移し、自他を尊重する態度はおおむね育っていることが確認できます。また、保護者の「自分や他の大切さを認めて行動できている」は96.8%→94.1%(保護者 Q5)と、家庭から見た肯定的な評価も引き続き高い状況です。一方で、自己肯定感に関わる項目では、「自分のことが好きで自信がある」において71.8%→49.3%(児童 Q15)と低下し、自分のよさや得意なことを実感しづらい児童が一定数いることがうかがえます。学校として、日々の生活の中で成功体験を積み重ねられる場面づくりや、仲間同士で努力やよさを伝え合う活動を一層充実させ、自己有用感・自己肯定感の向上につなげてまいります。</p>

<p>⑦信頼される学校づくり (地域・安全・不登校支援)</p>	<p>学校運営協議会を中心に、地域と協力する体制を進めました。保護者の「地域とともにある学校づくりを知っている」は 85.1%→92.0%と上昇し(保護者 Q25)、情報発信の適切さも 95.8%→93.6%で高水準でした(保護者 Q13)。一方、地域行事への参加は児童 68.7%→54.8%(児童 Q18)、保護者評価 85.1%→47.3%(保護者 Q24)と下がっており、日常の学習に地域の力を取り入れる工夫を進めます。</p>
<p>⑧小中連携の推進</p>	<p>小学校3校と第一中学校の教員が、児童・生徒の実態や課題を共有し、小中接続を見通した取組を進めました。教職員アンケートでは、「小中連携教育に取り組んでいる(実施)」の肯定が 73.5%→85.7%(教職員 Q35)と大きく向上し、教員間の情報共有や授業体験などの取組が広がったことが分かります。</p> <p>また、中学校での活動体験を通じた連携についても、「小中連携で行う取組を理解している」児童は 71.9%→84.7%(児童 Q3)と伸びており、あいさつ運動の交流や中学校での授業体験が、児童の安心感や意欲の向上につながっています。</p>
<p>⑨基礎・基本を育てる学習づくり</p>	<p>これまで取り組んできた学校の方針を基盤としながら、学習の基礎を確実に育てるため、短時間で集中して学ぶモジュール学習の活用を進めてまいりました。児童の学習理解を高める取組として、東京ベーシック・ドリル等にも取り組み、基礎・基本の定着を図っています。</p> <p>また、地域の特色を生かした学習として、江戸東京野菜「高倉大根」の栽培活動に取り組み、学校運営協議会委員であり地域の農家でもある方の指導を受けながら、体験的な学びを進めました。実際の生産に関わる方から学ぶことで、食や地域の歴史への理解を深め、学習内容について実感を伴って身に付ける取組となりました。</p> <p>学習理解に関する児童の「授業がわかる」は 96.6%→98.9%(児童 Q17)、保護者の「授業がわかる」も 90.5%→95.4%(保護者 Q17)と向上し、学級での丁寧な指導や反復学習の成果が見られました。また、家庭との連携を図るため、基礎的な学習内容を家庭学習につなぐ工夫を進めています。今後も、学力の土台を確かなものにするために、学校全体で一貫した学習支援を継続してまいります。</p>
<p>⑩読書活動の充実</p>	<p>子どもたちが読書に親しむ時間を増やすため、毎朝の「朝読書」を継続するとともに、読書月間や本の紹介などの読書推進に取り組んでまいりました。また、学校司書や地域ボランティアの協力を得て、読み聞かせや図書室での授業活用も進め、読みたい本に出会える環境を整えてきました。</p> <p>読書習慣に関する児童の回答では、「学校でよく読書している」が 83.5%→66.8%(児童 Q6)、「家庭でも読書している」が 54.6%→48.7%(児童 Q7)となり、学校での取組は一定の効果が見られる一方、家庭での読書習慣には課題が残りました。</p> <p>今後も、図書室を活用した授業の工夫や、家庭と連携した読書活動の充実を図り、子どもたちが読書を楽しむ力を伸ばしてまいります。</p>
<p>⑪外国語活動・英語教育の充実</p>	<p>児童の発達段階に応じて、外国語への関わり方を段階的に進めてまいりました。1・2年生では、ALT との英語活動を通して、英語の音や簡単な表現に触れる導入的な学習を行いました。3年生以上では、専門性の高い時間講師が指導にあたり、やり取りや聞き取りを中心にコミュニケーションの素地を育てています。5・6年生では教科としての英語に取り組み、ALT との連携による発話活動や表現の工夫を通して、英語の運用力を高める学習を展開しました。</p> <p>児童アンケートでは、「英語の勉強は楽しい」が 92.1%→85.0%(児童 Q4)、「英語がわかる」は 55.8%→60.0%(教職員 Q10)となり、学年に応じた取組が着実に進んでいることが分かります。今後も、専門性を生かした授業と ALT との協働を通して、英語に親しみながら自分の思いを伝える力を伸ばしてまいります。</p>

<p>⑫地域とのつながりを生かした教育活動</p>	<p>地域協力者とのかかわりを重視し、地域の力を教育活動に生かす取組を計画的に実施してまいりました。学校運営協議会や地域ボランティアの協力を得ながら、放課後の見守りや読み聞かせ、学習支援など、子どもたちが地域の大人とかかわる機会を増やしました。また、都立八王子東高等学校の生徒が、放課後子ども教室において児童の遊び相手として関わったり、夏休みの子ども食堂でのボランティア活動に参加したりするなど、異学年・異世代の交流を通じた取組も行いました。年上の生徒との関わりは、児童にとって安心感や憧れをもつ機会となり、地域の中で育つ意識を高めることにつながっています。</p> <p>保護者アンケートでは、「学校が地域とともにある学校づくりを進めていることを知っている」が 85.1%→92.0%(保護者 Q25)へ上昇し、地域と学校の協力体制の認知が高まりました。一方、児童の「地域行事に参加するつもり」は 68.7%→54.8%(児童 Q18)、教職員の「地域の方を招いた授業を行っている」は 76.4%→68.5%(教職員 Q32)と低下しており、活動を日常の学習により自然に組み込む工夫が今後の課題です。</p> <p>引き続き、地域と学校が一体となり、子どもたちが多様な学びや人とのつながりを感じられる活動を充実させてまいります。</p>
<p>⑬安心・安全な教育・生活環境づくり</p>	<p>保育園・幼稚園との連携を密にして、スタートカリキュラムを新たに策定し、生活科と他教科の関連を意識した学習を組織的に実施しました。入学直後から、学校探検や活動の見通しづくり、遊びを生かした学びを計画的に位置付け、学校生活への自然な移行を支えました。今後は、保育園・幼稚園との情報共有をさらに深め、1年生の実態に合った活動を充実させ、安心して学びに向かえる環境づくりを進めてまいります。</p>
<p>⑭特別支援教育の充実</p>	<p>児童理解を基盤とし、教育的ニーズに応じた支援を行うために、個別指導計画・学校生活支援シートなどの作成と共有しました。発達障害や多様な特性、生育歴・療育歴に起因する状況への理解を深めるため、校内研修やケース会議を行いました。アンケートでは、保護者の「特別支援教育について知っている」は 90.5%→99.1%(保護者 Q14)と向上し、学校の取り組みの認知が高まりました。教職員の「一人ひとり応じた支援ができています」も 91.1%→91.4%(教職員 Q36)で高い水準を維持しています。</p> <p>今後も、「基礎的な環境整備」や「合理的配慮」の視点を大切にし、子どもたちが安心して学べる環境づくりをさらに進めてまいります。</p>

3 総括と次年度に向けて

令和7年度は、「本気で学ぶ」「元気に遊ぶ」「正しく生きる」の三つの柱を軸に、授業改善や生活習慣づくり、地域との連携を大切にしながら、子どもたち一人ひとりの成長を支える教育活動を進めてまいりました。

授業では、分かりやすい説明やICTの活用に加え、学習の見通しをもてる工夫を進め、子どもたちが自信をもって学ぶ姿が広がってきました。また、外遊びや体験活動の充実、友だちとの関わりを大切にする学級づくりなど、心身の健やかな成長を促す取組も進めました。

一方で、家庭での学習習慣や読書習慣の定着、教職員間の指導のばらつきなど、学校・家庭・地域が協力して取り組むべき課題も明らかになりました。特別支援や小中連携、地域協力者との活動など、子どもを多面的に支える体制も着実に広がってきています。

次年度は、学びの土台づくりをさらに充実させるとともに、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を進め、子どもたちが安心して学び、着実に成長できる学校を目指してまいります。

4月の行事予定					授業時間						タカクラ クラブ
日	曜	行事	掃除 あり	1	2	3	4	5	6		
3月26日(木)～4月5日(日) 春季休業日											
6	月	始業式 特時N3時間授業(6年生のみ4時間授業) 入学式前日準備(6年生)			3	3	3	3	4		
7	火	入学式 特時N2時間授業(2・6年生…3時間)		2	3	2	2	2	3		
8	水	安全指導 2～6年給食始 1年生3時間授業 2～5年計測		3	4	4	4	4	4	★	
9	木	避難訓練(朝の時間) 1年生3時間授業 2年生4時間授業 3～6年生5時間授業 1・6年, たけのご計測	○	3	5	5	5	5	5	★	
10	金	5時間授業 1年生を迎える会 専科授業開始【3パ】【4パ】	○	4	5	5	5	5	5	★	

※掃除なしの日は、下校時刻が15分早まります。

※たけのご学級の下校時刻は別紙にてお知らせいたします。

チーム高倉 学校運営協議会だより(詳細は学校ホームページをご覧ください。)

日時 令和7年3月7日(金) 18:00～19:10

卒業式に向けた準備状況や、6年生を送る会の様子について共有し、子どもたちが落ち着いて学校生活を送れていることを確認しました。一方で、登校後の準備時間や生活リズム、校内での過ごし方(トイレの使い方等)について課題も見られることから、学校と家庭が連携して改善していく必要性を共有しました。

また、来年度に向けては、地域人材や外部講師を活用した体験活動の充実、ボランティアによる見守りや学習支援の強化などについて意見交換を行いました。

今後も、地域・保護者の皆様と連携しながら、子どもたちの健やかな成長を支えてまいります。

Home&School 年度更新のための利用停止について

欠席連絡でご利用いただいているHome&Schoolを3月26日(木)に停止いたします。4月6日(月)の午後に利用を再開できるようにいたします。そのため、始業式の日の欠席連絡につきましては、電話連絡をお願いいたします。8:25から始業式のため、欠席連絡は8:15までをお願いいたします。

始業式について

4月6日(月) 8:15～8:25登校 校庭に集まります。

持ち物: 手提げ袋、上履き、

新2～5年生は3時間授業(11:15頃下校) 新6年生は4時間授業(12:10頃下校)

教員の異動について

3月末をもって他校へ異動する教職員を、新聞報道に合わせて掲載いたします。

転入者や新聞報道以外の教職員の異動につきましては、学校だより4月号にてお知らせいたします。